



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第 22 号 香川県立農業大学校

〒766-0004

仲多度郡琴平町榎井 34-3

TEL 0877-75-1141 FAX 0877-75-3989

E-mail: nodai@pref.kagawa.lg.jp

校長あいさつ 先進地視察研修報告 全国・中四プロジェクト発表会 □卒論発表会 □同窓会
だより □活躍する卒業生 □技術研修科だより □頑張る修了生 □学生募集 □教職員名簿



4 月 11 日 入学式

入学生宣誓 辻松麻衣さん

GAP（農業生産 工程管理）の取組み

校長 高橋 清

農業は食に関する産業で、生産物には安全・安心な管理が求められます。また、機械操作など働く者の安全確保や環境への影響を極力少なくした環境配慮などについても理解しておく必要があります。

これらは、生産の現場では当たり前なことでも、普段はあまり意識しないのかもしれない。しかし、意識することで、気付かなかった発見をする。ことや改善が促進されます。農業大学校では、今年度から二年生を対象に GAP の授業を強化しました。

自分たちで圃場や施設、栽培管理面での改善ポイントを見つけ、検討事項を具体的に示す。

これらを繰り返すことで PDCA サイクルを回し、生産管理、効率性の向上はもとより、生産に携わる者の経営管理能力の向上を図り、経営感覚に優れた農業人材の育成を行います。

先進地視察研修報告

野菜園芸コース

兵庫県と大阪府で視察研修を行いました。兵庫県では、野菜が飲食店でどのように消費されているかを調査するため、神戸市内の野菜をメインにした料理を提供するレストランを二か所訪問しました。二か所とも様々な野菜料理を提供しており、野菜本来の味を活かしていると思いました。

二日目は、大阪府でタマネギ・キャベツを基幹にした大規模経営を行っている法人で経営方針について研修しました。この法人は契約販売が主体で、いわゆる顔の見える販売を行っています。その際、定期的な収穫量の変動対策として、収穫後冷蔵倉庫でストックする出荷コントロールを行っている点が強みであると感じました。

三日目は、大阪中央卸売市場で市場の役割について研修しました。市場の集荷機能、分荷機能、決済機能について

その重要度を改めて認識しました。

その後、インターネット上で農業生産者が提示する生産物を小売店、飲食店が発注するシステムを開発、運営している会社とそのシステムを利用している小売店で研修しました。生産者のこだわりの生産物と小売店が求める特別な商材をうまくマッチングさせていると思えました。



野菜本来の味を活かした料理

花き園芸コース

花き園芸コースは、愛知県と京都府で視察研修を実施しました。
愛知豊明花き市場は鉢物取

引がアジア・太平洋最大規模で、平成二九年の取扱実績が約五九〇〇万鉢、一一三億円です。研修当日は、ピーク時期の半数程度の入荷量でしたが、セリ待ちで市場全体を埋め尽くす鉢物台車の状況は圧巻でした。

カーネーション種苗専門のフジ・プランツ株式会社では、カーネーションの育種や種苗販売はもとより、国内で栽培されている約五〇〇品種全てが試作温室で見ることができ、導入品種検討の参考になっています。

有名花店での流通販売調査では、名古屋駅と京都駅付近の老舗花店や日比谷花壇を見学し、地域による取扱品目の違いや、本県と地方と首都圏との販売価格の違いを実感しました。

京都府立植物園は、大正十三年に開園した日本最古の公立総合植物園で、園内は広く、植物の種類が多すぎて見学期間が足りないぐらいでした。大規模な市場、首都圏での高級花店、また、多種の植物等普段見聞きすることのでき

ない研修となり、大変有意義な研修になったと思います。



有名花店の流通販売を調査

果樹園芸コース

本年度は、大都会への空路と地下鉄の乗り継ぎ方法や目的の地への最短出入口の確認の仕方等を学びながら、東京の視察地へ向かいました。

日本一の取扱規模である東京都中央卸売市場大田市場では、各産地からの出荷物やセリ状況等を見学しました。学生は市場に賑やかなセリのイメージを持っていましたが、最近では相対取引が多いことからセリが減少していて、残念そうでした。市場の規模と出

荷量や品数の多さ、さらに市場関係者が時間に追われて慌ただしく作業する姿に、学生は終始圧倒されていました。

市場内では、卸売業者や仲卸売業者の方々、市場駐在の担当者から県産果実の評価や要望等の「生の流通ニーズ」を聴くことができました。県オリジナル品種のキウイフルーツ「香緑」やブドウの「シヤインマスカット」等は、品質に対する高評価と高値が得られている一方で、県産品オリジナルへの安定的量への期待がより一層寄せられました。

また、都内の高級果実専門店や百貨店内のフルーツブースでは最高級果を飾るディスプレイは、気品高く美しく飾られており、超一流を実感、芸術品の域にあり、学生らは宝石店の様と目を丸くしていました。店舗では、商品説明、陳列や販売促進に至り、徹底した品質管理。接客対応や商品知識など販売の奥深さを知り、農大の直売所と比較し、「直売所もお洒落な販売をしたい。」との声が学生から上がっていました。

造園緑化コース

造園緑化コースは、まず東京に向かい、「江戸の二大庭園」と言われた六義園と小石川後楽園で研修しました。どちらの庭園も大都会の真ん中にありながら、古い大木が園内いっぱいにはびこり、ビルを視線からほとんど遮っているため、緑あふれる別世界の雰囲気の間となっていました。学生からは「空気が新鮮だ。」との感想が聞かれました。庭園管理では、松の樹木の枝先が垂れ下がる剪定方法が印象的でした。その後、新宿御苑と明治神宮の森に隣接する



高級果実専門店では説明を受ける学生ら

代々木公園に行き、現代公園についても研修しました。

その後、京都に移動し、室町時代の枯山水の石庭である龍安寺方丈庭園と江戸時代に皇族の別荘として作庭された優美な回遊式庭園の桂離宮庭園を中心に研修しました。

今回の研修では、代々木公園以外は和風の庭園ばかりでしたが、学生は剪定や掃除などの管理が行き届いた庭園から、静かな心が落ち着く雰囲気を感じとったようでした。

なお、宿泊場所の横浜と京都では有名な美味しいラーメンを食べて全員大いに満足しました。



小石川後楽園庭園にて

畜産コース

今年三月一四〜一六日に島根県隠岐の島へ視察研修に行ってきました。隠岐の島は、島前と島後に大別でき、今回は隠岐の島諸島で最大の島後の隠岐の島町へ行きました。総人口は約一万五千人、周囲は約一〇〇kmで総面積は約二四三〇〇haあり、繁殖和牛は二七戸が約八〇〇頭を飼養しています。

今回の研修は一四と一六日が移動で、視察は一五日だけでしたが、午前中に繁殖和牛約二三〇頭を飼養しているだんだん牧場と観光を目玉としている闘牛場や大峰放牧場、六次産業化に取り組んで繁殖和牛四二頭を飼養している遠藤牧場を見ることができました。

牧場のレストランで昼食をとり、午後からは雇用対策で平成一七年度から繁殖和牛約五〇頭を飼育している村上建設を視察しました。

夕食の際には、隠岐の島諸島の畜産担い手の方々との交流する機会もあり、畜産、水産、林業を主体としている隠岐の

島で、有意義な研修視察ができました。



だんだん牧場にて

全国・中四ブロックプロジェクト発表会

平成三〇年一月二五、二六日の二日間、島根県出雲市において中国四国ブロックプロジェクト発表会が開催されました。本校からは学生七名、全体で一七名が出席し、一九課題の発表がありました。本校は、溝渕恭矢さんが「早生ウンシュウミカンにおけるエチクロゼート乳剤の散布時期の違いが果実品質に及ぼす

影響」を、原崇将さんが「紫アスパラ新品種さぬきのめざめバイオレッタをどう活かすか？」を発表しました。

その後の交流会では他校の学生と親睦を深め翌日は島根県農業技術センターや出雲大社を見学しま



中四プロジェクト発表会の発表者

した。本発表会は次回、徳島県で開催されることになって

います
 全国プロジェクト発表会は同年二月一〜一四日に東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで約三五〇が参加し開催され、本校からは学生四名が参加しました。
 まず、記念講演で、オルトファーム（岡山県）の森安晃司氏が「新規就農を目指して」

と題して農大在学中から就農までの経緯、現在の環境やコスト低減にこだわった経営内容等について話されました。



全国プロジェクト発表会で受賞

引き続き行われた発表会では、本校の土屋舞子さんが自分の農業への想いや夢を発表し、第三位のヤンマー株式会社社賞を受賞しました。
 また、参加した四名は、それぞれ五名程度のグループに分かれて「私の将来と農業のあり方」をテーマとした意見交換会で他校の学生と意見を交わし、情報交換会では参加者が全員参加して学校生活や農業への想いを語り交流を深めました。

校内卒論発表会

コース	氏名	課題名
野菜園芸	安達 彩	イチゴ「さぬき姫」の窒素中断時期が収穫時期に及ぼす影響
	大曾根 健	オクラ収穫量の平準化を目指した剪定の検討
	河上 佳龍	食酢と焼酎混合液のアブラムシ類に対する防除効果
	木村 隼士	平成29年度のキュウリの出荷実績調査と例年との比較
	楠 宗朗	ニンニク栽培における土入れと梨球の関係
	孝壽 翔	キャベツの株間と収穫時期の関係
	田中 優哉	ビートバッグを用いたトマト養液栽培の給液量について
	豊島 拓実	スイカの半立体栽培が、スイカの品質に及ぼす影響
	西川 怜央	ナス有機栽培の経営評価
	原 崇将	紫アスパラ新品種「さぬきのめざめバイオレッタ」をどう活かすか？
花き園芸	綾 隆一	ヒマワリの灌水打ち切り時期及び多量播種間引き栽培が切花品質及び良品割合に及ぼす影響
果樹園芸	宇野 成彦	キウイフルーツ「さぬきゴールド」におけるフルメット液剤処理と一枝一蕾法が果実品質に及ぼす影響
	大高 雅之	カキ「早秋」における窒素系液肥の葉面散布が果実肥大に及ぼす影響
	土居 紀子	西南暖地における西洋ナシ「ラ・フランス」の収穫適期の判定について
	新美 泰紀	ブドウ「シャインマスカット」における植物成長調節剤と環状剥皮が果実品質に及ぼす影響
	西村 太一	フルメット処理によるキウイフルーツ「香緑」の果実に及ぼす影響
	溝淵 恭矢	早生ウンシュウミカンにおけるエチクロゼート乳剤の散布時期の違いが果実品質に及ぼす影響
	山田 達也	モモ「なつおとめ」の結果枝における着果位置がミツ症の発生に及ぼす影響
造園緑化	山本 誠	ブドウ「シャインマスカット」における台木の違いが葉中要素含有率に及ぼす影響
	横山 智紀	カキ「太秋」における窒素系液肥の葉面散布時期の違いが果実品質に及ぼす影響
	木村 雄介	螺旋階段の製作
	高木 駿輔	ピザを焼いて楽しむ洋風庭園の施工
	飛谷 直人	芝の管理と育成
	東口 泰世	3種類の竹垣を主体とした和風庭園の作成
畜産	平岡 優弥	洋風レンガ積み花壇の作成
	三芳 侑祐	体育館西側の休憩所作成
	北山 遼那	2年目の防虫成分含有ネットで牛のストレスは減るのか
	中村 健斗	繁殖豚のトマト給与による暑熱対策
	村上 絵美	乳用牛の粗飼料細断による効果

同窓会だより

良心市たかせ

辻野行則さん（三豊市）

私は、農業高校から農業大卒業しました。農大ではトマ

- 果樹園芸 溝淵 恭矢
- 野菜園芸 原 崇将
- 野菜園芸 安達 彩
- 野菜園芸 西川 怜央
- 野菜園芸 楠 宗朗

平成三〇年一月一九日に校内卒業論文発表会を行いました。
 二年生は、専攻実習の授業を通して課題を設定し、課題解決のために調査研究した結果を取りまとめ発表に臨みました。限られた持ち時間の中で、研究成果や問題点、生産現場での実用性などを整理して伝えようとする苦心の跡がみられました。
 一年生も発表の進行役として活躍し、来年度に向けて発表の場を経験しました。
 生徒も含めた出席者による採点の結果、優秀者は次の五名となりました。

トの先進農家で専攻で専攻を実習を行ったことが思い出深く、卒業後、実家で実家は、はやっていかなかった施設栽培に取り組みきっかけとなりました。また、学生自治会活動では会計を担当し、農大祭で準備から片付けまでを仲間らとやりとげたことは苦勞と喜びを経験できました。

卒業と同時に就農しましたが、当時から地域の農業後継者クラブの活動に参加し、産直『良心市たかせ』の設立と運営に関わってきました。そして、平成二九年六月から代表に、今年の四月には移転オープンをすることができました。



り組んでいます。おかげで、地域では三〇歳代の農家が增え、産直メインの販売を行う農家も増えています。

このように大規模経営だけでなく販売方法によっても「今から農業はおもしろい」と在校生に伝えたいです。そして、就農する時にはぜひ同窓会にも相談してください。

活躍する卒業生

大西 健司さん(善通寺市)

大西さんは、高校時代より果樹の農業経営の志を抱き、特にキウイフルーツ、その中でも県オリジナル品種に興味を抱きました。すべての品種が揃っている農業大学の果樹園芸コースに大きな希望を抱き、入学されました。農大や専攻実習先の府中果



樹研究所でも、持ち前の明るく真面目な性格で積極的に勉学と実習に取り組みされました。平成二七年春に卒業された後、善通寺市農地管理公社の研修制度を活用し、(有)キウイバードコーポレーションに研修生として二年間、島田社長に技術と経営の手ほどきを頂ました。「決して手を抜くな。農業は妥協したら負けだ。最高の技術管理をして手間暇を惜しまなければ、果実は必ず期待に答えてくれるとも。永年、農業経営を営まれた師の言葉に、心が震えたのを今でも覚えています。」今も、この言葉を心と経営の支えにして

いるそうです。

昨年の春より、県の補助事業等を活用し、農地小規模造成や平棚と灌水施設を設置して待望のキウイ(さぬきゴールド、さぬきキウイっ子®、香緑)約六〇aを植栽しました。将来は規模拡大し、雇用も確保したいと考えているそうです。取材当日は、授粉作業等多忙の中、快く取材を受け入れていただき感謝いたします。

技術研修科だより



フォローアップ研修受講者の皆さん

技術研修科では、多様なニーズに応えるために各種研修課程を開講しています。

一つ目は、これから就農を目指すしている方を支援するための研修として、①就農基礎講座②就農準備研修③就農実践研修④職業訓練研修を開講しています。二つ目は、農業に携わる方の営農技術向上を支援するための研修として①かがわ農業MBA塾②フォロワーアップ研修③農業機械利用技能者養成研修④聴講生受入研修を開講しています。三つ

めは、農業に対する理解を深めてもらうための研修として、園児、児童、生徒を対象としたジュニア農業体験研修等農業体験研修を開講しています。自身のステップに応じて選択ができる受講者からは高評価をいただいています。

頑張る修了生

大池 有香子さん(さぬき市) 田中 あやかさん(さぬき市)



私達 は平成 二八年 四月か ら四か 月間、 就農準 備研修 I 期生 として 農大で 野菜づくりの基礎を学び就農 しました。 結婚を機に来県し、全くの 異業種で仕事をしていました が、自分たちが暮らしている 地域の高齢化、休耕田を目的 当たりし、田畑を受け継い

でいくために、何かしなければと思ったのがきっかけでした。農大では短い期間ではありましたが、農具の使い方や野菜づくりの具体的な方法など幅広く実践的に学ぶことができました。

現在はニンニクニ〇aを栽培し、間もなく二作目の収穫を迎えます。また、オリーブ農家になるべく、オリーブの苗木を育てており、将来はオリーブオイルで起業できたらと考えています。瀬戸内の気候風土を活かした魅力あふれる農業に二人で取り組んでいきます。

学生募集

オープンキャンパス

開催日は、七月二一日(日)、八月三日(金)、八月一九日(日)の三回で、時間はいずれも九時三〇分〜一二時です。学生を対象とした「農場実習体験コース」は、①野菜、②果樹、③花き、④造園、⑤畜産の五コースからの選択となります。また、学生、保護

者、高校教諭を対象とした「学校施設案内コース」もありま すので、開催日の二日前までに本校の教務課に電話で申し込んでください。

入学試験

推薦入学試験の願書受付期間は九月二七日〜一〇月一日で、試験日は一〇月一八日です。前期の一般入学試験の願書受付期間は一月二九日〜二月二日、試験日は翌三一年一月七日です。後期の一般入学試験の願書受付期間は三一年二月七日〜二月一三日で、試験日は二月二一日です。詳細は本校教務課まで。

農業大学校教職員名簿

校長 高橋 清
副校長 仲本孝幸
総務研修課長 太卷まさみ
(庶務・経理担当)
主任 大方和男
主任 内藤哲士
主任 宮下千晶
主任 前川直未
主任 榎原 昇

(研修担当)
教授 横井弘善
教授 川上 清
教授 佐藤孝治
教授 宮武浩一

教務課長(兼) 仲本孝幸
(学務・農場担当)
教授 松本英治
准教授 川原清剛

農場管理員 真鍋利正
農場管理員 野村和親
農場管理員 石谷孝夫
農場管理員 内野々一枝

(野菜園芸コース)
教授 中尾俊彦
准教授 久保昌弘
教育助手 豊島拓実

(花き園芸コース)
教授 山本和人
教授 祖一範夫
教育助手 木村隼士

(果樹園芸コース)
教授 山口 登
教育助手 岡野冬弥
教育助手 大曾根健

(造園緑化コース)
教授 大西孝志
教授 住友 薫
教育助手 神野聖也

(畜産コース)
教授 真鍋圭哲